

令和6年度 第2回三重県歯科衛生士会生涯研修

第1回在宅歯科衛生士 養成研修会



日時

令和6年7月7日(日)13:30~15:30(質疑応答を含む)

受講方法

会場受講◎ 三重県歯科医師会館 2階 大会議室 (三重県津市桜橋2丁目120-2)
WEB受講◎ ZOOMミーティング

内容

「人と生活を支える訪問での摂食嚥下の診療」

講師

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
老化制御学講座 摂食嚥下リハビリテーション学分野
准教授 中川 量晴先生

対象

歯科衛生士等 (100名程度)



参加費

無料

申込方法

下記のURLまたは二次元コードから
お申込みください

URL: <https://forms.gle/85C3kBXNZCGU9ed1A>

申込締切

6月24日(月) ※定員になり次第、締め切りとなります。

悪天候等により、やむなく中止となる場合は、当日の10時までに三重県歯科衛生士会ホームページに掲載いたします。

【抄録】

人と生活を支える訪問での摂食嚥下診療

中川 量晴

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授

皆さまは訪問診療等で食支援に関われる機会がありますでしょうか？地域医療に携わると食に関するアドバイスが求められる機会がとても多いことに気づきますが、食支援とはそもそも何を指すのでしょうか？

本日の研修では、まずわたしたちが摂食嚥下の診療で大切にしている「フェーズ」についてお話しします。「フェーズ」を意識することで食支援を上手に進められることがありますし、同時に何を指した食支援なのかを自分なりに整理しやすくなります。次に、食支援の重要なキーワード、「生活の質」と「離床」について触れます。これまでの研究で高齢者の生活の質を高く保つことと、一定の離床時間を確保することが嚥下機能維持に強く関連することが分かってきました。これは、生活を楽しめるような支援がそのまま嚥下リハとして成立する、という新しい考え方を提起しており、食支援の概念を変える可能性があります。

最後に、最新的话题をいくつか提供します。「経口摂取の意義」「胃ろう食」に関してですが、普段、嚥下診療に関わっていない歯科衛生士さんにとっても摂食嚥下に興味を持っていただけるきっかけとなるようなお話しをしたいと思います。

【略歴】

2005年 愛知学院大学歯学部卒業
2009年 日本大学大学院歯学研究科 修了
2009年 日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 専修医
2010年 昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 助教
2013年 藤田保健衛生大学 (現、藤田医科大学) 医学部 歯科 助教
2016年 同 講師
2018年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 助教
2020年 同 摂食嚥下リハビリテーション学分野 助教
2022年 同 摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授
現在に至る

【お問合せ先】

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会事務局
TEL: 059-223-0815
メール: mie-dh@infoseek.jp

